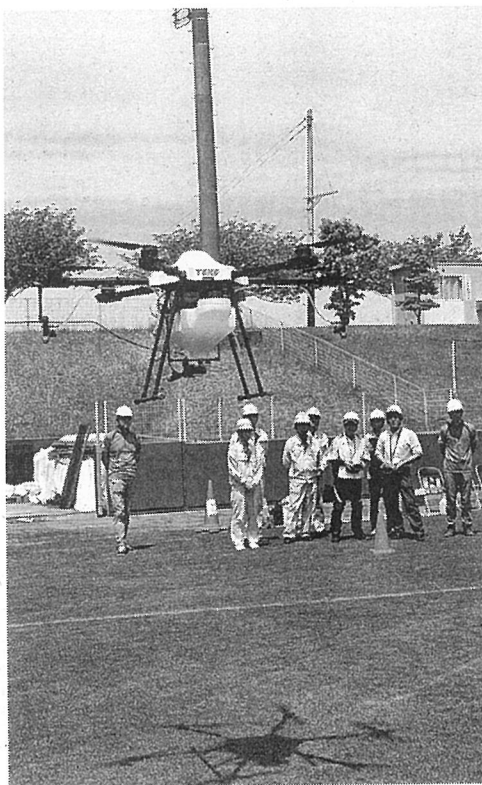


# 農薬散布の仕方学ぶ

## 南三陸町でドローン研修

気仙沼市田中前のマ  
ルタク内の「東北ド  
ローンスクール」によ  
る農薬散布用のスクー  
ルが、22日まで南三陸  
町の「平成の森」野球  
場で開かれ、受講者が  
基礎知識や技術、散布  
方法などを学んだ。

一般社団法人農林水  
産航空協会(農水協)  
の認定を受けられる  
コースで、農業や林  
業、養鶏などで活用を  
検討する6人が受講。  
17日から始まり、ルー  
ルや散布方法、機体性



農薬散布用ドローンの操作を実践

能などを学ぶ座学を2  
日間、操縦や散布など  
の実技を3日間実施し  
た。

散布用の機体は大型  
で、農薬や追肥などの  
液剤、粒剤のどちらも  
散布できる。まく範囲  
は、ほ場の形状やサイ  
ズに合わせて細かく調

整することが可能で、  
人力より手間や時間が  
削減でき、無人ヘリよ  
りも費用や騒音などが  
抑えられるメリットが  
あるという。

最終日の22日には、  
国産と外国産の2種類  
を使って、操作や散布  
を練習。位置情報など

の初期設定や起動、操  
作のほか、液体を散布  
する際には、風やまく  
範囲を確認しながら、  
むらなくまく方法など  
を学んだ。

富谷市の会社員阿部  
浩司さん(51)は「妻  
の実家が農家で、いず  
れ必要になると思い受  
講した。普通のドロー  
ンと操作はあまり変わ  
らず、コツをつかめば  
問題なく動かせる」と  
話した。

同スクールでは「ド  
ローンの導入で夏場の  
大変な時期などに作業  
の時間・労力を減らす  
ことができ、若者の参  
入にもつながると期待  
している。散布を請け

負うだけでなく、農家  
自身に操作を覚えて活  
用してもらえれば」と  
語った。

今後は月1回ペース  
まで。

で開き、次回は6月中  
旬を予定している。問  
い合わせは同スクール  
(電話48・5855)